

フルスペックパワーで、
水田の平和を守る！



いもち病、紋枯病も！ ウンカ、初期害虫、チョウ目害虫も！
問題になる病害虫をひろくカバー！

- いもち病に有効なルーチン® (イソチアニル)
- 紋枯病に有効なエバーゴル® (ペンフルフェン)
- 抵抗性ウンカ類にも有効なPX POWER® (ピメトロジン)
- 初期害虫・チョウ目害虫に有効な
ヨーバル® (テトラニプロール)

慣行播種
箱当り
50g

高密度播種
箱当り: 50~100g
(1kg/10aまで)



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078
9:00~12:00,13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

®ヨーバル、®ルーチン、®エバーゴルはバイエルグループの登録商標
PX POWER®はシンジェンタ社の登録商標



ヨーバル® パワーEV箱粒剤の特長

● 水稲の主要病害虫に優れた効果

- いもち病防除の定番「ルーチン®」(有効成分:イソチアニル)、紋枯病防除剤「エバーゴル®」(有効成分:ベンフルフェン)、新規ジアミド系殺虫剤「ヨーバル®」(有効成分:テトラニプロール)、ウンカ類へ効果の高いピメトロジンの4有効成分からなる水稲育苗箱専用剤です。
- 水稲の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ウンカ類、チョウ目害虫のニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガに優れた効果を発揮します。

● 優れた浸透移行性と長い残効

イソチアニル、ベンフルフェン、テトラニプロール、ピメトロジンはいずれも浸透移行性に優れ、長い残効性を有しています。

● は種時から移植当日まで使用可能

は種時覆土前から移植当日までの幅広い時期で処理が可能です。

● 高密度播種へ高い適用性

高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。(※ただし10a当りの処理量は最大1kg/10aです。)



目次

特長	3
適用病害虫および使用方法	4
有効成分の名称および物理的・化学的性状等 / 安全性(製剤)	5
イソチアニルの作用機構と作用特性	6
ベンフルフェンの作用機構と作用特性	7
テトラニプロールの作用機構と作用特性	8
ピメトロジンの作用機構と作用特性	9
病害虫への効果	10
新農薬実用化試験 概評(抜粋)	13
使用して問題のなかった水稲品種、育苗用培土の事例	17
稲の最重要病害「いもち病」/ 稲の2大病害「紋枯病」	18
播種時処理について / ウンカ類の防除	19

適用病害虫および使用方法

(2021年10月現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病、白葉枯病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ フタオビコヤガ ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ ウンカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種時(覆土前) ～移植当日	本 剤: 1回 テトラニプロール: 1回 ピメトロジン: 3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回) イソチアニル: 3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回) ペンフルフェン: 1回	育苗箱の上から 均一に散布する
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)			
		育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前 ～移植当日		

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

注意事項

- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾初として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本剤処理後に急激な乾燥が起こりやすい場所や温度変化が大きい場所で育苗した場合、薬害が生じるおそれがあるので、注意して下さい。
- 本剤処理後の極端な低温または高温条件下で薬害を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめて下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧にやり、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合がありますので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけて下さい。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤食などのないよう注意して下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないで下さい。
- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

○播種同時施肥機や田植同時施肥機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

有効成分の名称および物理的・化学的性状等

- 商品名: ヨーバル® パワーEV箱粒剤
- 農林水産省登録: 第24474号
- 試験名: BCM-193粒剤
- 種類名: テトラニプロール・ピメトロジン・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤
- 性状: 類白色細粒
- 有効年限: 4年

有効成分名	イソチアニル	ペンフルフェン	テトラニプロール	ピメトロジン
成分量	2.0%	2.0%	1.5%	3.0%
化学名	3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド	2'-[(RS)-1,3-ジメチルピリジン-5-フルオロ-1,3-ジメチルピラゾール-4-カルボキサニリド]	1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-メチル-6'-メチルカルバモイル-3-[[5-(トリフルオロメチル)-2H-テトラゾール-2-イル]メチル]ピラゾール-5-カルボキサニリド	(E)-4,5-ジヒドロ-6-メチル-4-(3-ピリジルメチレンアミノ)-1,2,4-トリアジン-3(2H)-オン
構造式				
分子量	298.15	317.41	544.88	217.2
融点	193.7～195.1℃	111℃	227～230℃	分解により測定不能
水溶解度	0.5mg/ℓ (20℃)	12.4mg/ℓ (20℃)	1.2mg/ℓ (20℃)	290mg/ℓ (25℃)
蒸気圧	2.36×10 ⁻⁷ Pa (25℃)	4.1×10 ⁻⁷ Pa (20℃)	4.6×10 ⁻⁶ Pa (25℃)	<4×10 ⁻⁶ Pa (25℃)
オクタノール/水分分配係数 (log Pow)	2.96 (25℃)	3.3 (25℃)	2.6 (25℃)	-0.18 (25℃)
作用機構 (FRAC/IRACコード)	P3	7	28	9B

安全性(製剤)

人畜毒性: 普通物*

- ◇急性経口毒性(ラット♀)… LD₅₀ > 2,000mg/Kg
- ◇皮膚刺激性(ウサギ)… 刺激性なし
- ◇眼刺激性(ウサギ)… 刺激性なし
- ◇皮膚感作性(モルモット)… 感作性なし(ただしイソチアニル、ペンフルフェン、テトラニプロールに感作性あり)

水産動植物への影響

- ◇魚類急性毒性(コイ)… LC₅₀(96時間) 5.52mg/ℓ
- ◇ミジンコ類急性遊泳阻害(オオミジンコ)… EC₅₀(48時間) 1.11mg/ℓ
- ◇藻類生長阻害(緑藻)… ErC₅₀(0～72時間) > 1,000mg/ℓ

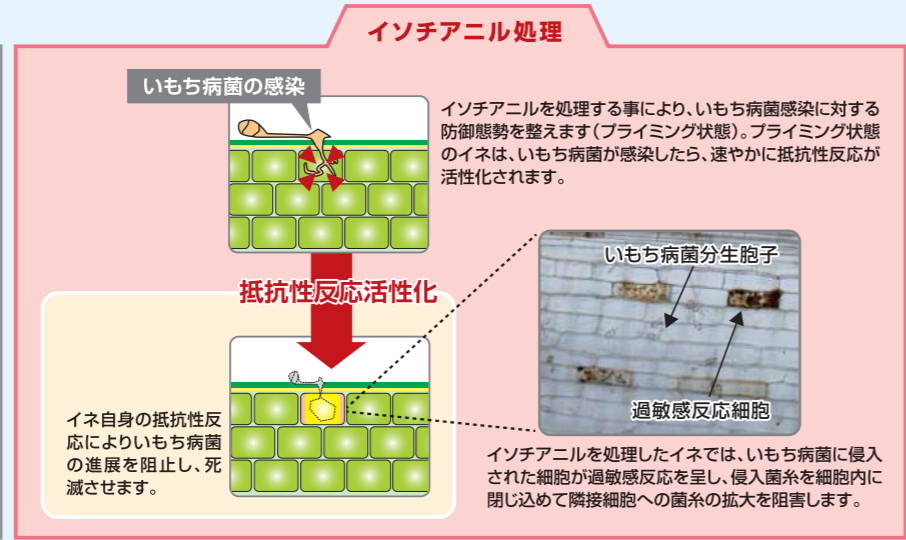
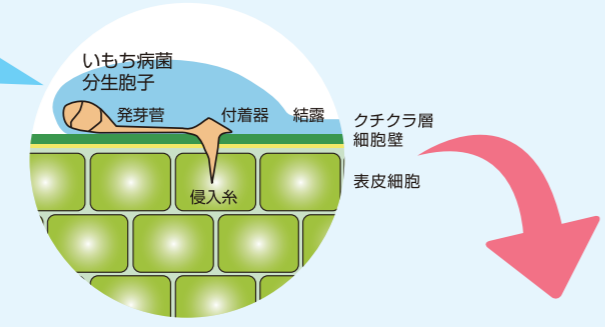
*「毒物および劇物取締法」に基づく毒物・劇物に該当しないものを指して言う通称

イソチアニルの作用機構と作用特性

作用機構

- イソチアニルは、イネが本来持っている自己防御機構を増強させ、いもち病などからイネを守ります。
- イソチアニルは処理後速やかに根部より吸収され、イネ体内に移行し、さまざまな病害抵抗性関連の防御反応をイネ体内に誘導して、病原菌の侵入に備える自己防御態勢をイネに整えます。

いもち病菌の侵入糸がクチクラ層、細胞壁へ貫穿、表皮細胞内へ侵入します。



作用特性

●イネ病害に対する阻害効果(育苗箱処理)

■イソチアニルは、いもち病に高い効果を発揮します。いもち病以外にも、白葉枯病や穂枯れ(ごま葉枯病菌)などに対して効果が認められます。

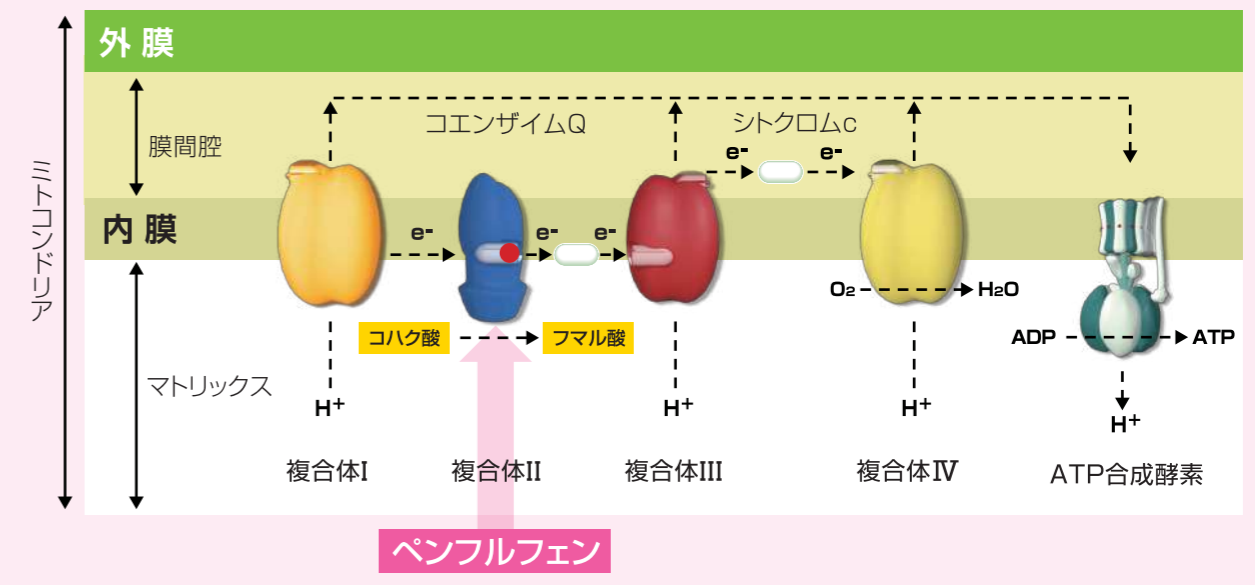
作物	病害	効果	
イネ	子囊菌類	いもち病	+++
		穂枯れ(ごま葉枯病菌)	+ ~ ++
		ごま葉枯病	—
	担子菌類	紋枯病	—
	接合菌類	苗立枯病(<i>Rhizopus</i> sp.)	—
	細菌類	白葉枯病	++ ~ +++
		もみ枯細菌病	+
		内穎褐変病	+
		苗立枯細菌病	+
		褐条病	—

- +++ 効果が高い
- ++ 効果あり
- + 低い効果が効果あり
- 効果不足

ペンフルフェンの作用機構と作用特性

作用機構

- ペンフルフェンは、病原菌のミトコンドリア電子伝達系複合体IIのタンパク質(コハク酸脱水素酵素)に作用します。
- 病原菌のエネルギー代謝を妨げることで、病原菌の主たる生育段階、すなわち菌糸成長、孢子発芽、発芽管伸長、孢子形成などを強く阻害します。



作用特性

- イネ病原菌に対する阻害活性※
- 紋枯病や疑似紋枯症の病原菌の属する担子菌類に対し優れた活性を示します。
- 紋枯病の伝染環とペンフルフェンの作用点
- 紋枯病の伝染環の殆どのステージに作用し、優れた効果を発揮します。

作物	病害	効果	
子囊菌類	いもち病	+	
	ばか苗病	+	
	ごま葉枯病	+	
イネ	担子菌類	紋枯病	+++
		褐色紋枯病菌(疑似紋枯症)	++
		赤色菌核病菌(疑似紋枯症)	++
		褐色菌核病菌(疑似紋枯症)	+++
		灰色菌核病菌(疑似紋枯症)	+++
		球状菌核病菌(疑似紋枯症)	+++
		褐色小粒菌核病菌(疑似紋枯症)	+++
接合菌類	苗立枯病(<i>Rhizopus</i> sp.)	—	
	卵菌類	苗立枯病(<i>Pythium</i> sp.)	—

- +++ 効果が高い
- ++ 効果あり
- + 低い効果が効果あり
- 効果不足

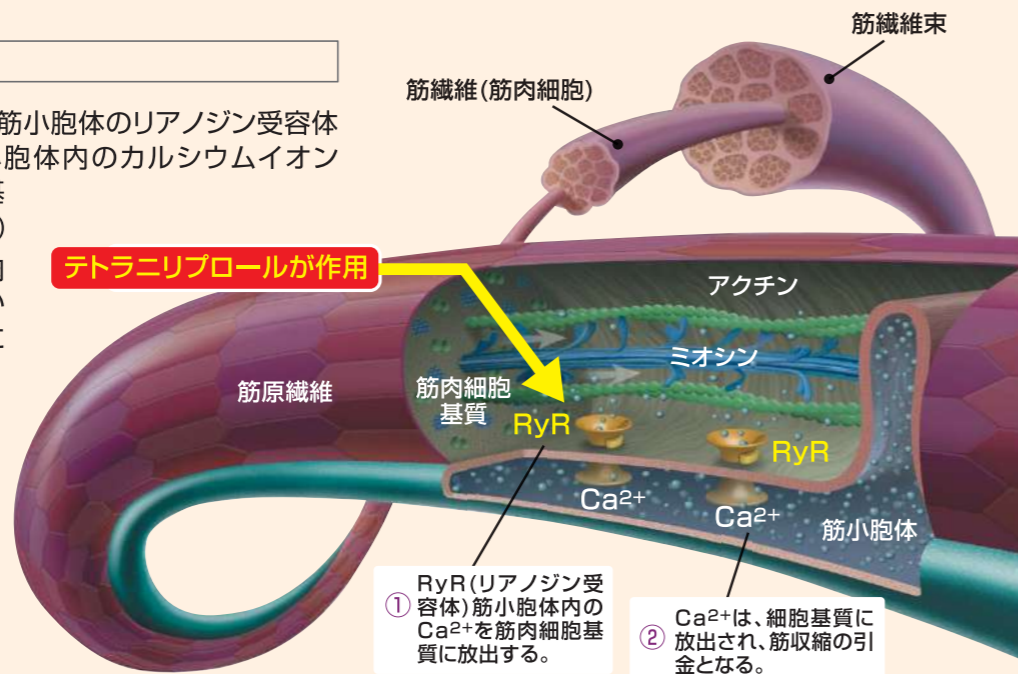


※寒天平板希釈法による各病害の病原菌に対する菌糸伸長阻害活性試験

テトラニプロールの作用機構と作用特性

作用機構

- テトラニプロールは、筋小胞体のリアノジン受容体 (RyR) に作用し、筋小胞体内のカルシウムイオン (Ca^{2+}) を筋肉細胞基質に放出させます。(①)
- その結果、昆虫は筋肉の収縮を起こし、速やかに活動が停止して死に至ります。(②)



作用特性

●テトラニプロールの虫体萎縮症状

■テトラニプロール処理により、摂食活動の停止と虫体萎縮症状が見られました。



2019年
バイエルクロップサイエンス(株)社内試験

- 品 種: ヒヨクモチ
- 対象害虫: コブノメイガ
- 処理方法: 小さなポットで栽培した苗(15~17cm)を1ppmに調製したテトラニプロール溶液(Toriton X-100を0.1%になるように加用)に20秒浸漬し、風乾。
- 接種方法: 風乾後、5~7cmに切った葉片10枚をシャーレに入れ、約10頭のコブノメイガ幼虫(5~7mm)を接種。接種3日後に調査。

●イネ主要害虫への効果

■テトラニプロールは水稻害虫に対し幅広い殺虫スペクトラムを有します。

害虫名		テトラニプロールの殺虫スペクトラム (水稻(育苗箱))
チョウ目	ニカメイチュウ	○
	コブノメイガ	○
	フタオビコヤガ	○
	イネツトムシ	○
コウチュウ目	イネドロオイムシ	○
	イネミズゾウムシ	○
カメムシ目	ツマグロヨコバイ	○
ハエ目	イネヒメハモグリバエ	○
バッタ目	コバネイナゴ	○

○: 殺虫活性あり

□: 特に活性の高い害虫

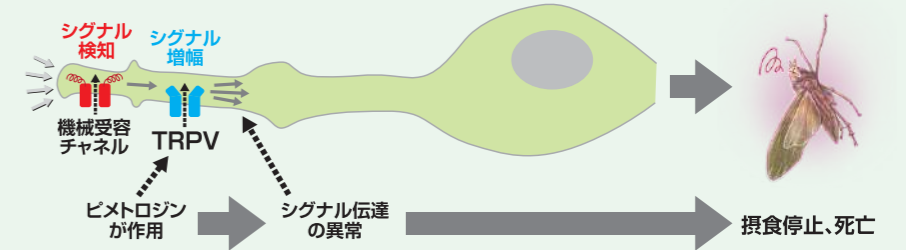
ピメトロジンの作用機構と作用特性

作用機構

■ピメトロジンは国内の水稻分野で使用できる作用機構として唯一、殺虫剤分類9Bに属し、従来の薬剤が効きにくくなったウンカ類にも高い効果を有します。

■ピメトロジンは、昆虫の関節内にあり体の各部位の相対的な位置を感じる弦音器官のシグナル伝達に関わるTRPVチャンネルに作用します。TRPVチャンネルは弦音ニューロンの微弱な機械受容シグナルを増幅しますが、ピメトロジンの作用により、関節の動きに係わらず神経シグナルを発生し続けることで、昆虫は聴力・運動の統制を失い、すみやかに摂食を停止し、その後、飢餓により死亡します。

出典: IRAC (Insecticide Resistance Action Committee) 資料



作用特性

●ピメトロジンの吸汁によるウンカの殺虫過程

■イネの吸汁によりピメトロジンを取り込んだウンカでは、神経伝達異常により、水面への落下や、吸汁阻害による餓死が引き起こされます。



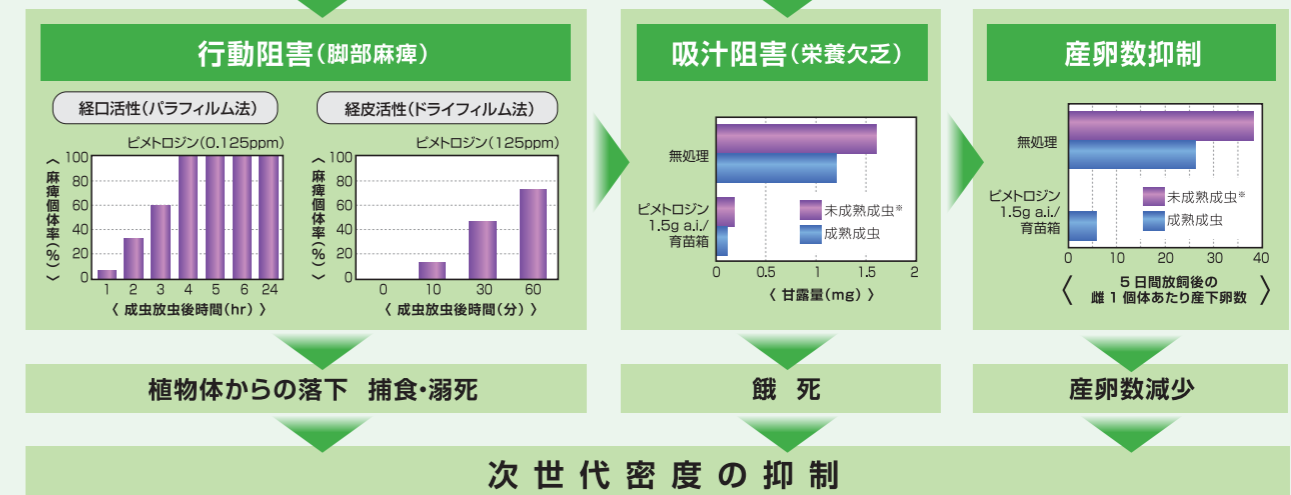
供試害虫: トビイロウンカ

出典: シンジェンタジャパン株式会社提供資料

●ウンカ類に対する作用と活性

■ピメトロジンのウンカに対する効果は、行動阻害、吸汁阻害、産卵数抑制により得られます。

イネの吸汁による薬剤の取り込み



1998年 シンジェンタジャパン株式会社社内試験

供試害虫: トビイロウンカ ※放飼虫生育ステージ: 未成熟成虫: 羽化0~3日後、成熟成虫: 羽化7~10日後

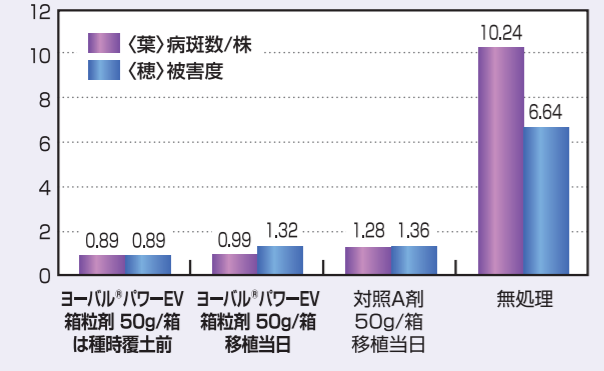
吸汁阻害試験方法: 移植当日育苗箱施用し、移植7日後にトビイロウンカ成虫を放虫した。1日間放虫後、そのトビイロウンカの雌雄1対を新しい無処理のイネ体を入れた試験管に放虫し、2日後に取り出し、試験管内の甘露量(排泄物)を測定した。

産卵阻害試験方法: 移植当日育苗箱施用し、移植7日後にトビイロウンカ成虫を放虫した。5日間放虫後トビイロウンカを取り除き、葉鞘内の産下卵数を数えた。

病害虫への効果

■いもち病への効果

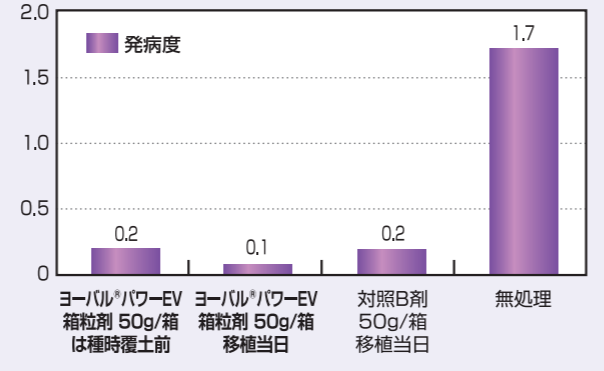
2019年 フィールドバイオリサーチ株式会社 福岡事務所



●品種：さがびより ●発生状況：中発生(葉いもち)、少発生(穂いもち)
 ●は種：6月3日 ●移植：6月25日 ●出穂：9月6日
 ●調査：葉いもち 9月2日(上位3葉調査)、穂いもち 10月2日

■白葉枯病への効果

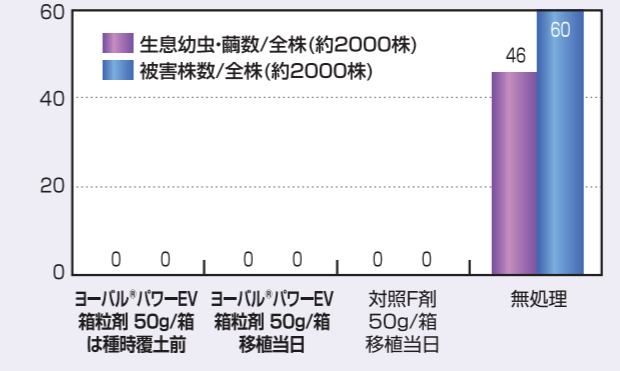
2019年 (一社)日本植物防疫協会 高知試験場



●品種：ヒノヒカリ ●発生状況：少発生(接種)
 ●は種：5月10日 ●移植：6月5日 ●接種：6月5日、8月14日
 ●出穂：8月26日 ●調査：9月18日(止葉と次葉を調査)

■イネドロオウムシへの効果

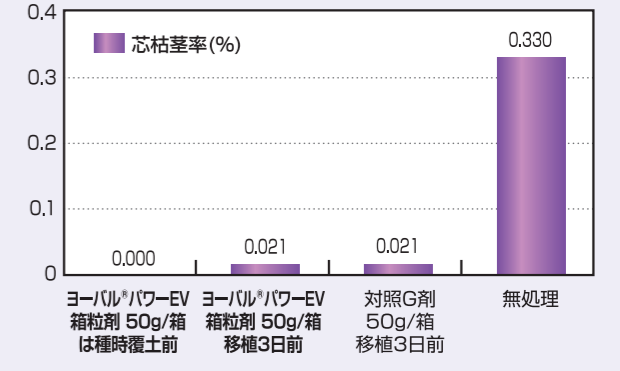
2019年 (一社)日本植物防疫協会 茨城研究所



●品種：コシヒカリ ●発生状況：少発生 ●は種：4月11日 ●移植：5月2日
 ●調査：6月11日(移植40日後 生息幼虫・菌数)、6月17日(移植46日後 被害株数)

■ニカメイチュウへの効果

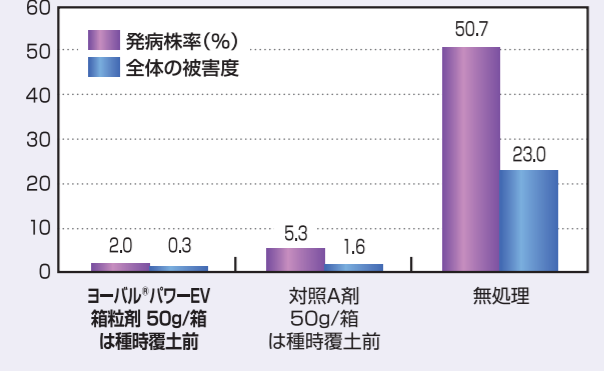
2019年 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場



●品種：ヒノヒカリ ●発生状況：少発生
 ●は種：6月9日 ●移植：6月28日 ●出穂：8月23日頃
 ●調査：9月18日(移植82日後)

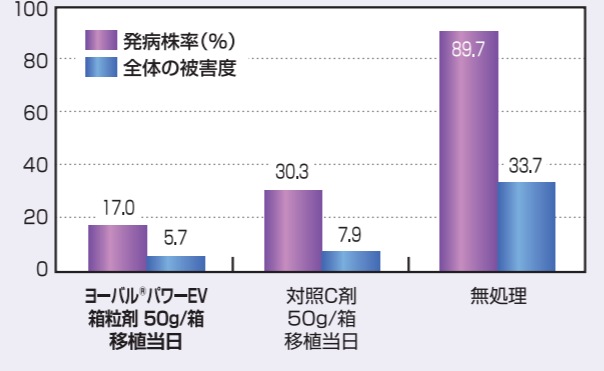
■紋枯病への効果

2019年 福井県植物防疫協会



●品種：ハナエチゼン ●発生状況：中発生
 ●は種：4月7日 ●移植：4月28日
 ●出穂：7月17日 ●調査：8月6日

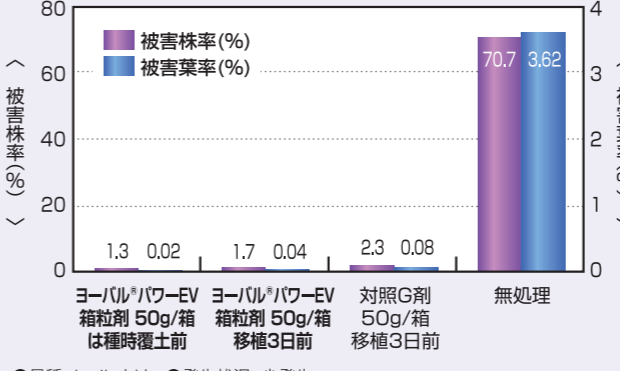
2019年 山口県農林総合技術センター



●品種：日本晴 ●発生状況：中発生(接種)
 ●は種：5月14日 ●移植：6月6日
 ●接種：7月24日 ●出穂：8月16日 ●調査：9月13日

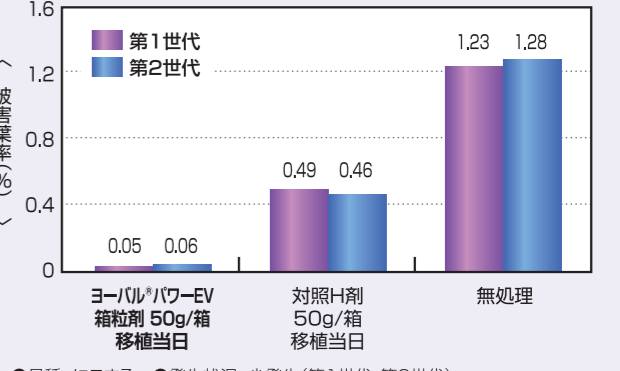
■コブノメイガへの効果

2019年 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場



●品種：ヒノヒカリ ●発生状況：少発生
 ●は種：6月9日 ●移植：6月28日 ●出穂：8月23日
 ●調査：8月9日(移植42日後 上位3葉調査)

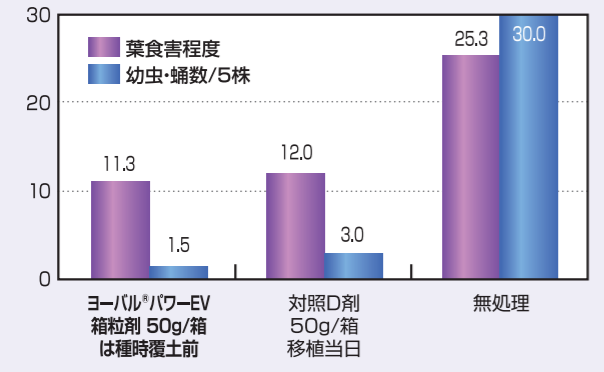
2019年 (一社)日本植物防疫協会 岡山試験場



●品種：にこまる ●発生状況：少発生(第1世代、第2世代)
 ●は種：5月29日 ●移植：6月20日
 ●調査：8月10日(移植51日後 第1世代上位4葉調査)、9月3日(移植75日後 第2世代上位3葉調査)

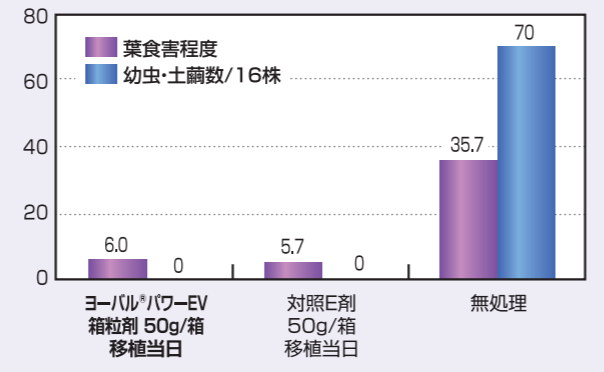
■イネミズゾウムシへの効果

2019年 山形県農業総合研究センター



●品種：はえぬき ●発生状況：中発生
 ●は種：4月23日 ●移植：5月15日
 ●調査：6月24日(移植40日後 食害程度)、7月3日(移植49日後 幼虫・蛹数)

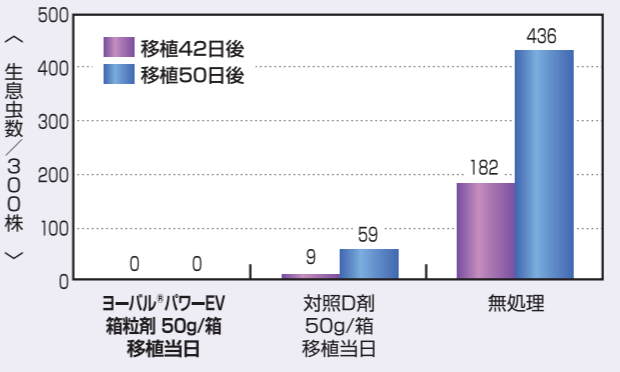
2019年 (一社)宮城県植物防疫協会



●品種：ひとめぼれ ●発生状況：少発生
 ●は種：4月12日 ●移植：5月12日
 ●調査：6月20日(移植39日後 食害程度)、7月6日(移植55日後 幼虫・土菌数)

■イネツトムシへの効果

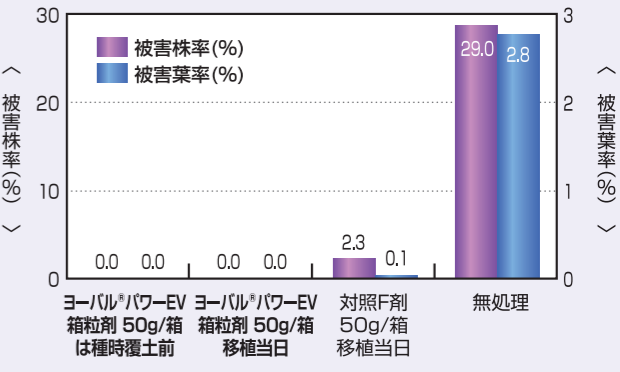
2019年 長野県農業試験場



●品種：あきたこまち ●発生状況：中発生
 ●は種：6月7日 ●移植：6月24日
 ●調査：8月5日(移植42日後)、8月13日(移植50日後)

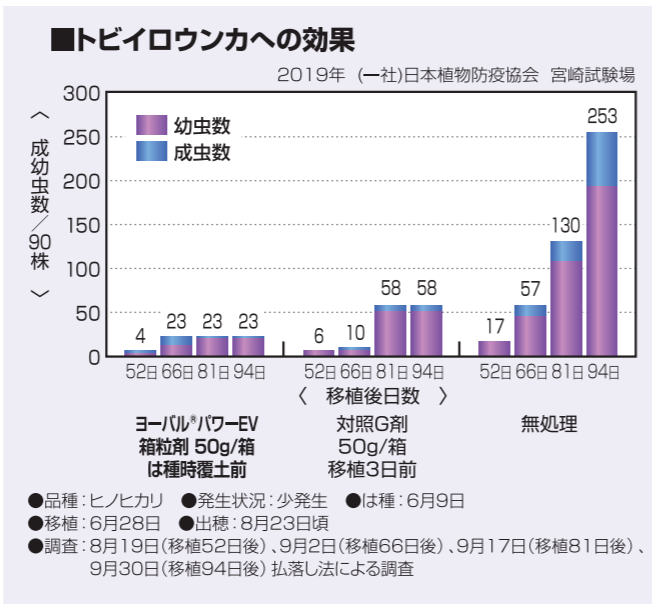
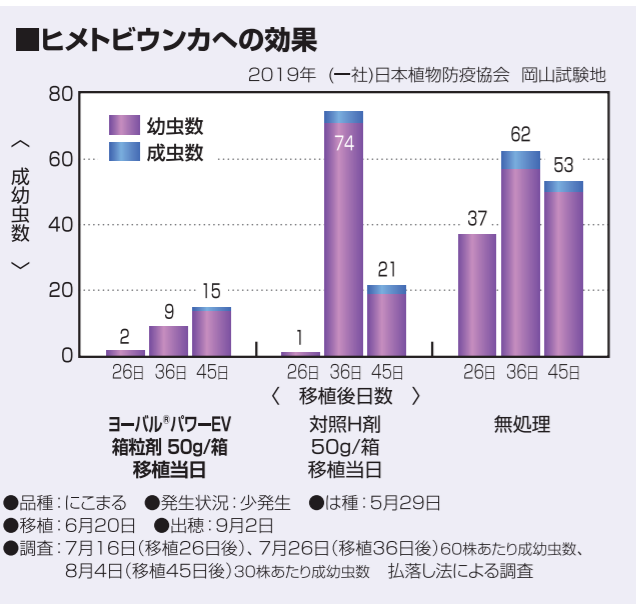
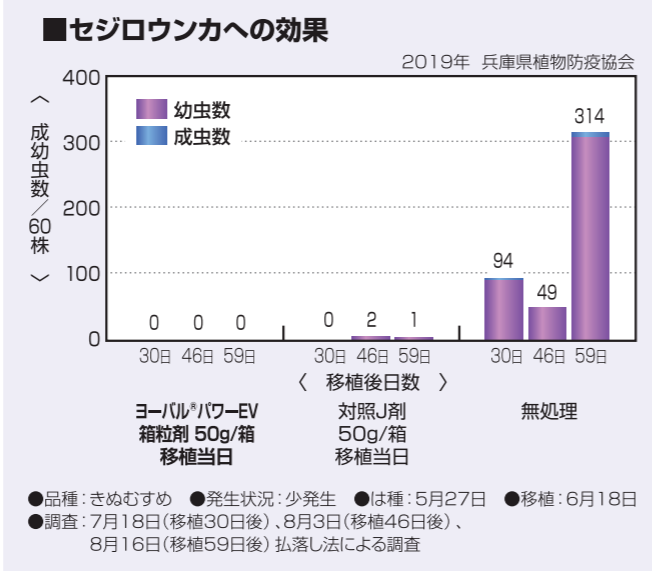
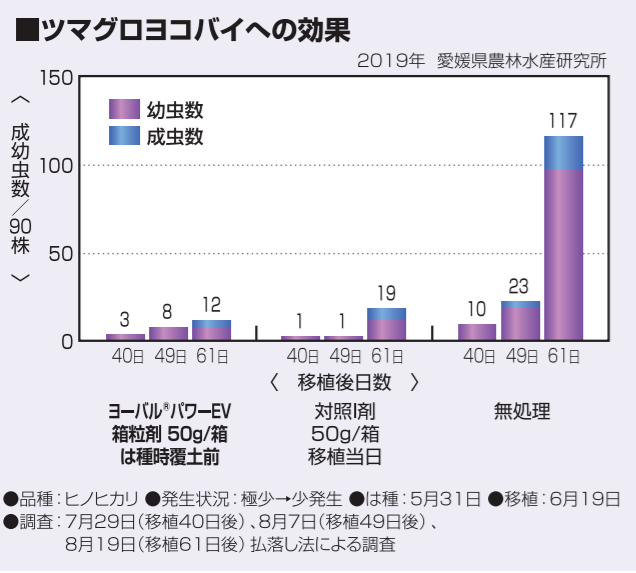
■フタオビコヤガへの効果

2019年 (一社)日本植物防疫協会 高知試験場



●品種：ヒノヒカリ ●発生状況：少発生(放虫)
 ●は種：5月17日 ●移植：6月7日
 ●調査：8月5日(移植59日後)

病害虫への効果



新農薬実用化試験 概評(抜粋)

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			葉害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(ひとめぼれ)	いもち病	宮城古川	本田	葉:少(接種)穂:極少	は種:4/18 移植:5/16 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:A穂:?	葉:A穂:?	葉:A穂:?	-
2019	稲(わたぼうし)	いもち病	新潟	本田	葉:多(接種)穂:中	は種:4/18 移植:5/10 出穂:7/21	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B穂:C	葉:A穂:C	葉:A穂:C	-
2019	稲(ハナエチゼン)	いもち病	福井植	本田	葉:中(接種)穂:少	は種:4/7 移植:4/28 出穂:7/17	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:A穂:A	葉:B穂:A	葉:B穂:B	-
2019	稲(関東90号)	いもち病	岡山	本田	葉:中(接種)穂:多	は種:5/27 移植:6/14 出穂:8/22	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B穂:A	葉:A穂:A	葉:A穂:B	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	いもち病	日植防高知	本田	葉:少(接種)穂:極少	は種:5/17 移植:6/7 出穂:8/23	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B穂:?	葉:B穂:?	葉:B穂:?	-
2019	稲(さがびより)	いもち病	フィールドバイオ リサーチ(佐賀)	本田	葉:中穂:少	は種:6/3 移植:6/25 出穂:9/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B穂:B	葉:A穂:A	葉:A穂:B	-
2019	稲(ひとめぼれ)	いもち病	宮城古川	本田	葉:少(接種)穂:極少	は種:4/18 移植:5/16 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉:B穂:?	葉:A穂:?	葉:A穂:?	±
2019	稲(わたぼうし)	いもち病	新潟	本田	葉:多(接種)穂:中	は種:4/18 移植:5/10 出穂:7/21	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B穂:C	葉:A穂:C	葉:A穂:C	-
2019	稲(ハナエチゼン)	いもち病	福井植	本田	葉:中(接種)穂:少	は種:4/7 移植:4/28 出穂:7/17	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉:B穂:C	葉:A穂:B	葉:A穂:B	±
2019	稲(関東90号)	いもち病	岡山	本田	葉:中(接種)穂:多	は種:5/27 移植:6/14 出穂:8/22	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B穂:A	葉:A穂:A	葉:A穂:A	+*
2019	稲(ヒノヒカリ)	いもち病	日植防高知	本田	葉:少(接種)穂:極少	は種:5/17 移植:6/7 出穂:8/23	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B穂:?	葉:B穂:?	葉:B穂:?	-
2019	稲(さがびより)	いもち病	フィールドバイオ リサーチ(佐賀)	本田	葉:中穂:少	は種:6/3 移植:6/25 出穂:9/6	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B穂:A	葉:A穂:B	葉:A穂:B	±

※移植苗の根張り不良

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			葉害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲(ハナエチゼン)	紋枯病	福井植	本田	中	は種:4/7 移植:4/28 出穂:7/17	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲(関東90号)	紋枯病	岡山	本田	基(接種)	は種:5/27 移植:6/14 出穂:8/22	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照L剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2019	稲(日本晴)	紋枯病	山口	本田	中(接種)	は種:5/14 移植:6/6 出穂:8/16	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照C剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲(さがびより)	紋枯病	佐賀	本田	少	は種:5/8 移植:6/19 出穂:9/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照M剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲(ハナエチゼン)	紋枯病	福井植	本田	中	は種:4/7 移植:4/28 出穂:7/17	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (は種時覆土前)	A	A	A	±
2019	稲(関東90号)	紋枯病	岡山	本田	基(接種)	は種:5/27 移植:6/14 出穂:8/22	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照L剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	+*
2019	稲(日本晴)	紋枯病	山口	本田	中(接種)	は種:5/14 移植:6/6 出穂:8/16	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照C剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2019	稲(ヒノヒカリ)	紋枯病	日植防宮崎	本田	基(接種)	は種:6/9 移植:6/28 出穂:8/29	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	B	B	-

※移植苗の根張り不良

新農薬実用化試験 概評 (抜粋)

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (コシヒカリ)	白葉枯病	石川	本田	中(接種)	は種:4/15 移植:5/9 出穂:7/30	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照N剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	白葉枯病	京都府大(病)	本田	中(接種)	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照O剤 50g/箱 (移植前日)	B	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	白葉枯病	日植防高知	本田	少(接種)	は種:5/10 移植:6/5 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照B剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B	-
2019	稲 (コシヒカリ)	白葉枯病	石川	本田	中(接種)	は種:4/15 移植:5/9 出穂:7/30	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照N剤 50g/箱 (は種時覆土前)	A	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	白葉枯病	京都府大(病)	本田	中(接種)	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照O剤 50g/箱 (移植前日)	B	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	白葉枯病	日植防高知	本田	少(接種)	は種:5/10 移植:6/5 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照B剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B	±

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (コシヒカリ)	もみ枯細菌病	京都府大(病)	本田	中	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照P剤 50g/箱 (移植前日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	もみ枯細菌病	日植防茨城	本田	少(接種)	は種:4/18 移植:5/9 出穂:8/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照O剤 30g/箱 (移植3日前)	B	B	B	-
2019	稲 (日本晴)	もみ枯細菌病	山口	本田	多(接種)	は種:5/14 移植:6/6 出穂:8/18	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照Q剤 50g/箱 (移植当日)	A	C	C	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (キヌヒカリ)	内穎褐変病	埼玉	本田	多	移植:6/10 出穂:8/13	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	内穎褐変病	奈良植	本田	少	移植:6/15 出穂:8/25	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照S剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (きぬむすめ)	内穎褐変病	兵庫植	本田	中	移植:6/18 出穂:8/23	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照T剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (にごまる)	内穎褐変病	日植防岡山	本田	少	移植:6/22 出穂:9/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照B剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (ヒノヒカリ)	穂枯れ (ごま葉枯病菌)	日植防宮崎	本田	少(接種)	は種:6/9 移植:6/28 出穂:8/30	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2020	稲 (キヌヒカリ)	穂枯れ (ごま葉枯病菌)	兵庫	本田	少	は種:5/11 移植:6/4 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照U剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2020	稲 (ヒノヒカリ)	穂枯れ (ごま葉枯病菌)	日植防宮崎	本田	中(接種)	は種:6/5 移植:6/22 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植3日前)	B	C	C	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (ひとめぼれ)	イネミズウムシ	宮城植	本田	少	は種:4/12 移植:5/12	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (コシヒカリ)	イネミズウムシ	石川	本田	中	は種:4/15 移植:5/9	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照N剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (コシヒカリ)	イネミズウムシ	日植防茨城	本田	中	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (はえぬき)	イネミズウムシ	山形	本田	中	は種:4/23 移植:5/15	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (コシヒカリ)	イネミズウムシ	石川	本田	中	は種:4/15 移植:5/9	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照N剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
2019	稲 (コシヒカリ)	イネミズウムシ	日植防茨城	本田	中	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (あきたこまち)	イネドロオウムシ	岩手植	本田	少(放虫)	は種:4/18 移植:5/18	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B	-
2019	稲 (コシヒカリ)	イネドロオウムシ	石川植	本田	中	は種:4/5 移植:5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (コシヒカリ)	イネドロオウムシ	日植防茨城	本田	少	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (コシヒカリ)	イネドロオウムシ	日植防山梨	本田	中	は種:5/1 移植:5/27	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照W剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (つがるロマン)	イネドロオウムシ	青森植	本田	少(放虫)	は種:4/18 移植:5/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照W剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
2019	稲 (ひとめぼれ)	イネドロオウムシ	宮城植	本田	少(放虫)	は種:4/5 移植:5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照X剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
2019	稲 (コシヒカリ)	イネドロオウムシ	日植防茨城	本田	少	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (ハナエチゼン)	イネツトムシ	福井植	本田	少	は種:4/7 移植:4/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (あさひの夢)	イネツトムシ	日植防茨城	本田	中	は種:5/21 移植:6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (あきたこまち)	イネツトムシ	長野	本田	中	は種:6/7 移植:6/24	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	±
2019	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	愛媛	本田	少	は種:6/7 移植:6/25	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (にごまる)	コブノメイガ	日植防岡山	本田	第1:少 第2:少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	第1:A 第2:A	第1:A 第2:A	第1:A 第2:A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	山口	本田	第1:甚 第2:甚	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	第1:D 第2:D	第1:B 第2:D	第1:B 第2:D	-
2019	稲 (あさひなみ)	コブノメイガ	鹿児島	本田	中	は種:5/15 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	山口	本田	第1:甚 第2:甚	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	第1:C 第2:D	第1:B 第2:D	第1:B 第2:D	±
2019	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	愛媛	本田	少	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	鹿児島植	本田	少	は種:5/24 移植:6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照F剤 50g/箱 (移植前日)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-

新農薬実用化試験 概評 (抜粋)

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			被害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (トビイロウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	C	C	C	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (トビイロウンカ)	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	D	C	C	±
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (トビイロウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	A	B	B	-
2019	稲 (きぬむすめ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	兵庫植	本田	少	は種:5/27 移植:6/18	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照J剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (にこまる)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	日植防岡山	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	愛媛	本田	少	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	D	C	C	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	C	B	B	-
2019	稲 (キヌヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	滋賀	本田	少→中	は種:5/21 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照Z剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (きぬむすめ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	鳥取	本田	少→多	は種:5/7 移植:5/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照AA剤 50g/箱 (は種時覆土前)	C	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	±
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	愛媛	本田	少	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (ヒメトビウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	C	B	B	-
2019	稲 (きぬむすめ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	兵庫植	本田	少	は種:5/27 移植:6/18	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照J剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	愛媛	本田	少→中	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	C	C	C	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
2019	稲 (あきほなみ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	鹿児島	本田	中	は種:5/15 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	A	A	A	-
2019	稲 (キヌヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	滋賀	本田	少	は種:5/21 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照Z剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (きぬむすめ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	鳥取	本田	少	は種:5/7 移植:5/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照AA剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	C	A	A	±
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	愛媛	本田	少→中	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ウンカ類 (セジロウンカ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	B	B	B	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			被害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (ゆめみづほ)	ニカメイチュウ	石川植	本田	中(放虫)	は種:4/5 移植:5/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
2019	稲 (ひめの凜)	ニカメイチュウ	愛媛	本田	少(放虫)	は種:5/10 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ニカメイチュウ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
2019	稲 (ゆめみづほ)	ニカメイチュウ	石川植	本田	中(放虫)	は種:4/5 移植:5/6	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
2019	稲 (ひめの凜)	ニカメイチュウ	愛媛	本田	少(放虫)	は種:5/10 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ニカメイチュウ	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	A	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			被害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (コシヒカリ)	フタオビコヤガ	福井植	本田	少	は種:4/16 移植:5/12	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照X剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2019	稲 (あさひの夢)	フタオビコヤガ	日植防茨城	本田	少	は種:5/21 移植:6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	フタオビコヤガ	日植防高知	本田	少(放虫)	は種:5/17 移植:6/7	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2019	稲 (はえぬき)	フタオビコヤガ	山形	本田	少(放虫)	は種:4/23 移植:5/15	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	B	-
2019	稲 (コシヒカリ)	フタオビコヤガ	福井植	本田	少	は種:4/17 移植:5/12	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照AB剤 50g/箱 (は種時覆土前)	A	A	A	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	フタオビコヤガ	日植防高知	本田	少(放虫)	は種:5/17 移植:6/7	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			被害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2019	稲 (にこまる)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防岡山	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
2019	稲 (あきほなみ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	鹿児島	本田	多	は種:5/15 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	C	C	C	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	D	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	D	C	C	±
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	愛媛	本田	極少→少	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2019	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	D	B	B	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤 (処理条件)	効果			被害
							処理方法	回数	処理時期		対照	対無処理	判定	
2020	稲 (ササニシキ)	イネヒメハモグリバエ	宮城植	本田	中	は種:4/11 移植:5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2020	稲 (コシヒカリ)	イネヒメハモグリバエ	島根	本田	少	は種:4/15 移植:5/7	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照D剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
2020	稲 (ササニシキ)	イネヒメハモグリバエ	宮城植	本田	中	は種:4/11 移植:5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照E剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2020	稲 (コシヒカリ)	イネヒメハモグリバエ	島根	本田	少	は種:4/15 移植:5/7	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照D剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-

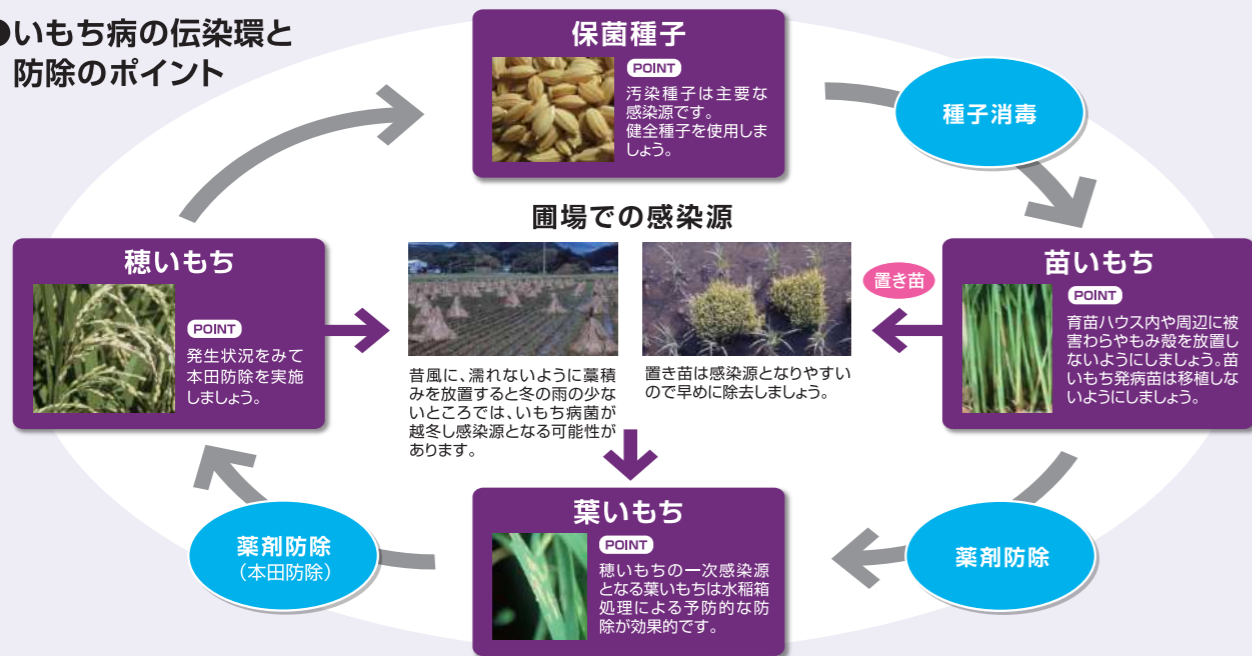
●使用して問題のなかった水稲品種、育苗用培土の事例 (慣行播種/は種時覆土前処理での確認事例)

水稲品種	キヌヒカリ・きぬむすめ・黄金錦・コシヒカリ・さがびより・つがるロマン・日本晴・はえぬき・ハナエチゼン・ひとめぼれ・ヒノヒカリ・ひめの凜・夢しずく・ゆめみづほ・わたぼうし
育苗用培土	サセキ田植機用育苗専用培土・サセキ中寒地培土・イセキ培土・イセキラブリー培土・宇部粒状培土2号・輝培土・極きわみつけ・グリーンソイル寒地用・クリーン培土・合成培土L・ゴールデンゼオライト培土・苗みどり・ニュースーパー培土・びわこ2号育苗培土・ホーネン培土・ヤンマーすこやか培土・粒状軽量培土

稲の最重要病害「いもち病」

いもち病は稲に対し最も甚大な被害を与える病害です。低温で雨の続く天候や窒素肥料を多用した場合に発病しやすく、稲の発芽間もない時期から収穫期近くまで長期間にわたり発生します。いもち病は伝染力が強いので、予防的な防除が重要です。優れた抵抗性誘導剤イソチアニルを含むヨーバル®パワーEV箱粒剤の処理により、いもち病の初期感染を長期にわたり防除することができます。

●いもち病の伝染環と防除のポイント



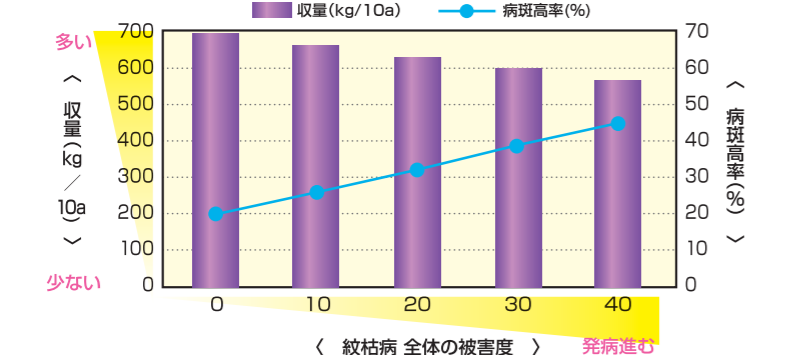
稲の2大病害「紋枯病」

紋枯病は収量や品質の低下を招き、稲作の収益に影響する病害です。高温性の本病は近年被害が問題化しています。紋枯病に対し極めて高い効果を発揮し、また、効果の持続性に優れたペンフルフェンを含むヨーバル®パワーEV箱粒剤の処理により、省力的、効果的な紋枯病の防除が可能です。

●紋枯病による被害

収量の減少 紋枯病の発病が進み、上位に病斑が進展するほど減収となります

紋枯病が収量に与える影響 調査事例 2014年 バイエルクロップサイエンス(株) 山形県現地圃場



品 種: はえぬき
方 法: 9月9日に紋枯病の自然発生圃場(多発生)から健全株(5株)、紋枯病罹病株*(101株)を採取し、株毎に紋枯病被害度(羽柴式)と1.9mm篩整粒重を調査。(※紋枯病の発病株は全ての茎に病斑が認められ、最上位病斑高が30cm以上の株を対象とした)10aあたり株数17,000株とし、被害度と収量換算値(kg/10a)の回帰式より、被害度あたりの収量を求めた。

品質低下

未成熟粒や乳白粒が発生し、食味も低下します



倒伏



※多発圃場では薬剤防除と耕種的防除を組み合わせた体系防除が有効です。

◇好適条件の回避: 多肥料、密植栽培をさける ◇一次感染源の除去: 代かき時の浮遊残渣の除去 ◇翌年の感染源の抑制: 冬季の畦畔雑草の管理

播種時処理について

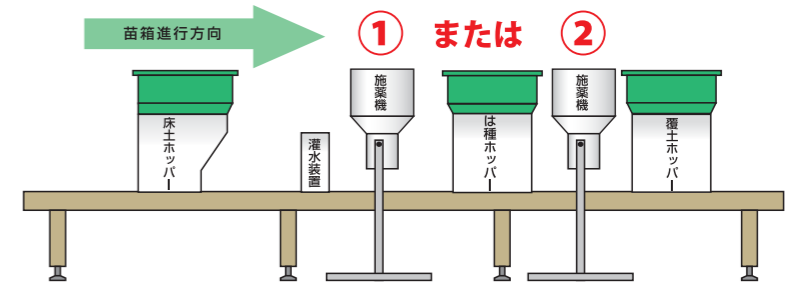
ヨーバル®パワーEV箱粒剤を播種時施薬機で処理する事によって、育苗箱処理の手間を省力し、効率的な作業が行えます。

播種時施薬機の一例



播種時施薬機の設置例

播種時施薬機は、灌水装置の後に設置して下さい。
(施薬機は、①または②の場所に設置して下さい。)



- 播種作業時に使用する場合、播種時施薬機の散布量調整をお願いします。
- 傾きがあると正確な散布が出来なく、散布ムラの原因になりますのでご注意ください。
- 播種時施薬機の取扱説明書の注意事項をご確認ください。

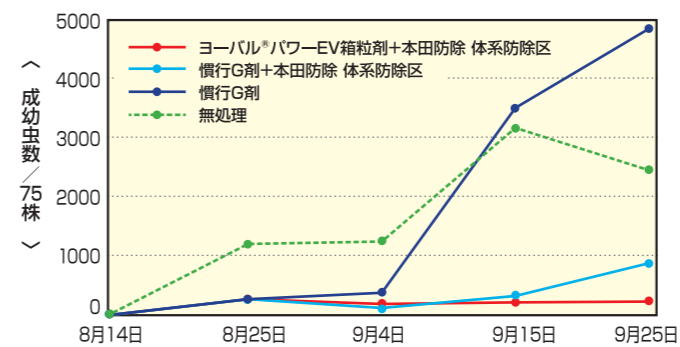
ウンカ類の防除

●トビイロウンカ

トビイロウンカは収穫期まで世代を繰り返しながら密度を増加させるため、水稲箱処理剤と本田防除剤との体系防除が重要です。ピメトロジンは既存薬剤に対し抵抗性の発達したウンカ類にも有効ですので、ヨーバル®パワーEV箱粒剤の処理により、本田移植後長期にわたり防除することができます。

本田防除との体系処理によるトビイロウンカ防除試験

2020年 大分県農林水産研究指導センター



- 品種: ヒノヒカリ ●発生: 甚発生 ●移植: 6月16日
- 出穂: 8月25日
- 箱粒剤処理: 移植前日(6月15日) ヨーバル®パワーEV箱粒剤、慣行G剤を各50g/箱処理
- 本田防除: 8月28日(MR.ジョーカーEW 1000倍、150L/10a)
- 調査: 8月14、25日、9月4、15、25日(移植60、71、81、92、102日後) 払落し法による調査

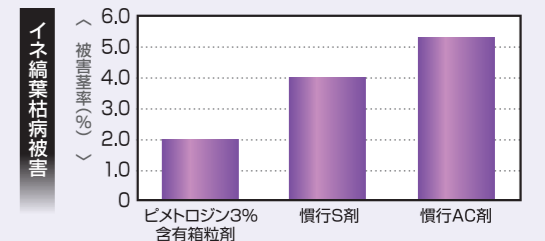
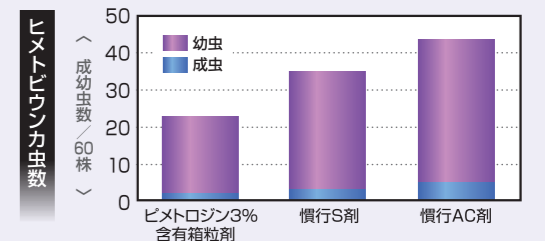
成熟期(10月3日頃)において、無処理区および慣行G剤単独処理区では坪枯れが発生したが、ヨーバル®パワーEV箱粒剤および慣行G剤の体系防除区では坪枯れの発生はなかった。

●ヒメトビウンカ

ヒメトビウンカの媒介する縞葉枯病は、保毒虫が稲を吸汁することにより感染、伝播を繰り返すため、吸汁阻害効果と長期残効を有する薬剤による予防的な防除が重要です。ピメトロジンは優れた吸汁阻害効果に加え、次世代密度抑制効果を有するため、ヨーバル®パワーEV箱粒剤の処理により効果的に防除できます。

ヒメトビウンカへの効果試験

2020年 バイエルクロップサイエンス(株) 群馬県現地圃場



- 品種: コシヒカリ ●移植: 6月6日
- 処理: 移植当日50g/箱処理
- 調査: 8月18日(移植73日後) 払落し法による虫数調査、イネ縞葉枯病病室を調査

ピメトロジン3%含有箱粒剤区は、慣行S剤、慣行AB剤同等のヒメトビウンカおよび縞葉枯病に対する防除効果を示した。